

## 輸入制限米の取引材料

米国のトランプ政権が、次々と保護主義的な政策を打ち出しています。カナダで開かれた主要国首脳会議（シヤルボワ・サミット）でも大きな議題になりました。今後、日本企業にも影響が広がる懸念がある。

△米国は6月、鉄鋼に25%、アルミニウムには10%の関税を上乗せする輸入制限措置を発動した。輸入車に25%の関税を上乗せすることも検討している▽

世界の人々を驚かせたのは、米国が当初、鉄鋼とアルミの輸入関税上乗せについて、すべての国を対象にすると発表したことです。輸入増が、米国の安全保障を脅かしているためだと主張しています。輸入車への関税も同じ理屈です。

ただ、米国はその後、カナダや欧州連合（EU）、ブラジルなど7か国・地域については、一時的に鉄鋼とアルミの関税の適用を猶予しました。

結局、6月からブラジルや韓国などの4か国以外には関税をかけることになりましたが、7か国・地域からの輸入量のシェア（占有率）は鉄鋼で6割以上、アルミで約5割に上ります。それらを除外する可能性が

## 世界恐慌、大戦の教訓

鉄鋼やアルミについては、今のところ日本企業への影響は限られています。日本の製品は、他国の企業では製造できない高品質なものが多いからで、関税が上がっても米国の企業は輸入せざるを得ず、主に被害を受けるのは米企業の方です。日本の粗鋼生産量のうち、米国への輸出は約2%に過ぎない。

ただ、一般的に米国のような経済規模が大きい国が関税をかける時、世界全体の鉄鋼需要が減り、価格は

あつたとすれば、安全保障という理由には無理があるでしょう。トランプ大統領の交渉手法は、相手に脅しをかけて、少しでも米国にとって良い「デール（取引）」をまとめるようとする特徴がある。輸入関税上乗せの一次的な猶予は、FTA（自由貿易協定）交渉で有利な条件を引き出すためのカード

とする狙いもあったようです。実際に、韓国は関税上乗せの免除の代わりに、米国への鉄鋼製品の輸出量に上限を設けるなどの譲歩を迫られました。

下がります。米国から締め出された鉄鋼がアジアなどに流れれば、日本の製品と競合します。

自動車の関税が引き上げられれば、日本企業への打撃は一層、深刻なものとなります。鉄鋼などと同様、韓国が適用を免れれば、米国での日本車の競争力は大きく低下するでしょう。さらに懸念されるのは、米国の輸入制限に対して中国やEUなどが報復措置を取り、世界中に報復合戦が広がることです。

1929年からの世界大恐慌後には、米国が自国産業保護のため関税を引き上げると、各国が報復関税を課しました。各国で外国製品を締め出す「ブロック経済」化が進み、輸出を増やすために通貨の切り下げ競争も起こった。世界の貿易量は約4年で3分の1に縮小。世界経済が深刻な不況に陥り、第2次世界大戦の一因となりました。

各国とも今回、世界大恐慌後のような強硬手段を押し通すとは思いません。ただ、輸入制限が各国に広がると、その影響は過去より大きくなる。グローバル化で、生産工程が世界各地に分散しているからです。

# 保護主義に勝者はいない



石川 城太氏

一橋大学大学院経済学研究科教授

いしかわ・じょうた 一橋大学大学院修士課程修了、カナダのウェスタン・オンタリオ大で博士号（経済学）取得。2001年から現職。専門は国際貿易論。58歳。

### 米国の鉄鋼製品の輸入量のシェア (2017年、米商務省調べ)

カナダ	16.5%
EU	14.5%
ブラジル※	13.5%
韓国※	9.9%
メキシコ	9.2%
ロシア	8.3%
トルコ	5.7%
日本	5.0%
台湾	3.3%
インド	2.2%
中国	2.1%
その他	9.8%
合計	100.0%

※は関税上乗せを除外

### POINT

- ☑ 米国の輸入制限は、各国の報復合戦を招く懸念
- ☑ 世界大恐慌後、保護主義で世界の貿易量は大幅縮小、大戦の遠因に
- ☑ 日本はWTOの紛争処理に活路、保護主義のマイナス面も地道に訴えるべきだ

## WTOの立て直し必要

米国の保護主義に対抗するにはどうすればいいのでしょうか。日本が頼れる公的な組織は世界貿易機関（WTO）です。

過去には、WTOが迅速な紛争処理で成果を上げた例があります。2002年

にブッシュ（子）大統領が鉄鋼に最高30%の関税を課した際、WTOはルール違反だとして輸出国に対抗措置を認めた。EUが米国からの輸入品に報復関税を課す方針を表明すると、米国は関税を撤廃しました。

ただ現在、WTOの紛争処理機関で上級審にあたる上級委員会の委員に欠員が出ています。WTOを軽視する米国が欠員の補充を阻止しているからで、審査が進みにくくなっています。日本は、地道に上級委員会委員の補充など機能の立て直しを全世界に訴えていくべきでしょう。

聞き手・福森誠

## HISTORY

保護主義が第2次世界大戦の遠因になったとの反省から、戦後の国際社会は自由貿易を推進してきた。

## ン・パッシング

1980年代)

(ラウンド)で関税を引き下げ、世界経済の発展に貢献した。

一方、貿易の拡大に伴って紛争も増えた。代表的なのは日米貿易摩擦だ。



暴する全米自動車労働者の組合員ら(AP)

品が米国企業のシェア（占有率）を奪い、80年代の米国では「日本は失業を輸出している」として激しい「日本叩き（ジャパン・バッシング）」が起こった。

氏の現在の姿勢は「日米貿易摩擦が激しかった80年代の対日観を引きずっているためだ」との指摘もある。ガットはWTOに機能が引き継がれたが、多国間